

## 令和7年度「学生による授業評価」のまとめ

本校では、「学生による授業評価実施に関する申し合わせ」に基づき、毎年度、授業終了前後に学生による授業評価を実施している。

対象は、学生が受講した講義・演習・実習等のすべての授業科目であり、授業内容や方法、到達目標の達成度等について評価を行っている。

**図1. 学生による授業評価用紙(様式1)**

学生による授業評価 (令和4年XX学科XX年生):実施日:R5年XX月XX日									
科目名	XXXX	教員名	XXXX	強く思う (5)	やや思う(4)	どちらともい えない(3)	あまりそう思 えない(2)	まったくそう えない(1)	
履修態度	Q1.事前に十分な予習をしましたか。			5	4	3	2	1	
	Q2.授業に毎回積極的に参加しましたか。			5	4	3	2	1	
	Q3.授業中に講義内容を理解する為の努力をしましたか。			5	4	3	2	1	
	Q4.毎回講義の復習を十分にしましたか。			5	4	3	2	1	
目標達成	Q5.最終的に講義の目標を達成することができましたか。			5	4	3	2	1	
科目内容	Q6.あなたにとって講義全体の難易度は適切でしたか。			5	4	3	2	1	
	Q7.講義を履修することで学習意欲は増しましたか。			5	4	3	2	1	
総合評価	Q8.この講義は全体として満足出来るものでしたか。			5	4	3	2	1	
自由記載欄	Q9.講義に対する意見やコメントがありましたら、ご自由に記載願います。								

授業評価の用紙は教員ごとに複数の様式が使用されているが、本報告では、最も多くの教員が使用している様式(図1)を基準として分析を行った。図2は、図1の設問8(他様式ではこれに相当する設問)について、各授業の平均値を算出し、その数値およびばらつきをグラフ化したものである。

昨年度は、全学科において平均値(5点満点)が4.3~4.6と極めて高い評価を得ており、学科間には統計的に有意差が認められたものの、いずれも高水準であった。

一方、令和7年度の結果では、理学療法学科、看護学科、および学科に所属しない学内教員による授業においては引き続き高い評価が維持されたが、作業療法学科においては前年度と比較して有意な低下が認められた。

ただし、作業療法学科では回答者率が67%とやや少なく、統計的妥当性の観点からは結果の解釈に慎重を要する状況であった。今後は回収率の向上およびサンプル数の確保に努め、より精度の高い評価に基づいて学科の現状を把握していきたいと考える。

また、令和7年度における新たな取り組みとして、外部講師の授業についても、希望者を対象に授業評価を実施した。その結果、外部講師の評価は本校専任教員の評価と概ね同水準であることが確認された。

今回特筆すべき点として、個別授業の最高平均点は5.0点、最低平均点は3.7点であったことが挙げられる。特に最低点は前年度の3.2点から0.5点上昇しており、授業改善への取り組みが一定の成果を上げつつあることを示していると考えられる。

今後も本評価結果を真摯に受け止め、教育内容および教育方法のさらなる質向上に継続的に取り組んでいきたい。

